

NPOとして活動することと働くこと

NPO法人ふらっとスペース金剛
岡本聡子

♡活動のはじまり

私たちのNPO法人ふらっとスペース金剛では、無償のボランティアから社会保険加入の有給専従職員まで、さまざまな種類の働き方と収入のスタッフが活動している。自分の収入だけで生活をしなくてもよい女性たちの働きに頼ることも多いNPOが、どうやって組織内で折り合いをつけてきたのかを、振り返ってみた。

活動のきっかけは、ふらっと気軽に立ち寄れる場所、Flatな関係でお互い支えあう場所がほしい、という思いだった。2003年、生協活動をしていたメンバー、富田林市男女共同参画課の女性問題アドバイザー養成講座の修了生、子育てサークルのメンバーらが集まり、ニュータウンの民家を借りて、場としての「ふらっとスペース金剛」を立ちあげた。集まった人たちの年代や目的意識、したいことはそれぞれであったが、「自分たちの居場所」を得たことに喜びを感じていた。ところが、拠点を維持するにはお金がかかる。家賃のために1人月額5000円を拠出することにしたが、自分たちの居場所を得るために払い続けるには負担が大きすぎる。

そこで、「私たちの居場所」を育て中の母親たちに広く開放することで、利用料を負担してくれる人たちを増やすことにした。お菓子にこだわった喫茶店風にするのか、ゆったり子づれでくつろげる実家風にす

のか、おもちゃの質はどうするのかなど、細かいことを決める段になると、グループのもろさがでてきた。具体的に詳細な部分ほどもめるのだ。そこで決めたのは、問題が起こったときに立ち返る目標。当時の合言葉は、「続けるための最善は？」だった。ベストでなくとも「今、活動を続けるために必要なこと」を優先順位の高いところに置くことで、細かい衝突は解消された。

♡NPO設立にむけて

開設して半年、毎月5000円の負担疲れが開始する。活動を続けるための方法として、NPO法人を取得し、社会的な団体となつて、委託事業や助成金による事業を展開していくと提案したが、この議論が決着するまで半年以上かかった。生協でワークショップ・コレクティブ活動を続けてきたメンバーからは、代表を頂点とするピラミッド型の組織体制に異論が出た。活動を継続するために、会社組織みたいな運営をする必要はないという意見だ。さまざまな

♡活動から事業へ

勉強会や研修会に参加し、NPO法人格の必要性、行政から事業を受託していくことの可能性について検討を重ね、NPO法人化することのメリットとデメリットを徹底的に議論した。そして2004年8月、NPO法人ふらっとスペース金剛が誕生する。

生きてきた背景も、価値観も違う。この活動や法人に対する思い入れや力の入れ具合も当然違う。それぞれ優先順位をつけながら生きていく。頭ではわかっているけど、メンバー同士が感情的に理解しあうことは意外と難しいのだが、それぞれの価値観を尊重しあうことを共有理解とし、話しあうときの基本姿勢として明確にして議論した。「NPO法人は、サイズの合わない服を着ているみたい」と法人には参加しないという選択をした仲間もいるが、応援者として今も関係は続いている。